



脚立に登り、サクランボを収穫するミカエルさん(22日、山形市で)

山形市 フランスから助っ人

「やまがた」サクランボの収穫の最盛期を迎えた山形市の小笠原喜彦さん(73)方に、フランス人の大工の経験を生かし、

大工とスキーパトロールだが、オーストラリアでサクランボ収穫の仕事を経験。山形で人手不足の情報を聞き、JAやまがたの紹介で今月2日から働いている。

ミカエルさんは「日本は時給だが、オーストラリアは収穫量に応じて賃金が支払われるためサクランボの奪い合いだった。ここはリラックスして働ける」と語り、「サクランボの詰め方が素晴らしい」と感心する。

園地の駐車場で自家用車に寝泊まりし、午前5時から朝食を挟んで、夕方近くまで枝切り作業などに励む毎日。小笠原さんは朝食と昼食を提供。夜は園地内直売所の台所

を借りて自炊し、小笠原さんが営む旅館の温泉で疲れを癒やす。

通訳を兼ね、一緒に働いている大阪府の村中美香さん(33)は「サクランボがたわなに実った木が、収穫後には葉だけに」と話した。

小笠原さんは「よく働いてくれる。収穫はベテランと同じ速さ。年を重ねるにつれ、枝切りなどが十分にできないでいた。こんなに切ってもらったのは久しぶり」と目を細めた。

ミカエルさんらは7月20日ごろまで働き、ビザが切れる11月上旬まで日本の観光などを楽しむ。

サクランボ 人手不足を救え 収穫ピーク

猫の手援農隊 参上

【山形・さくらんぼひがしね】

「快汗! 猫の手援農隊」が19、22日、JAさくらんぼひがしね管内を訪れ、組合員の畑でサクランボの収穫作業を手伝った。

「猫の手援農隊」は、農作業ボランティアを通して都市と農村の交流を深めてもらおうと、全国農協観光協会が企画する農作業体験ツアーで、東根市での実施は今年で4

【山形・さくらんぼひがしね】

今年訪れたのは7人で、そのうち3人が東根市の芦野忠作さん(64)の園地で作業をした。埼玉県の太田幸子さん(75)と加藤みどりさん(66)は昨年に続くリピーターで、ともに「サクランボが大好き。作業も楽しい」と笑顔を見せた。



サクランボの詰め方を手伝う小谷さん(山形県東根市で)

バイト代 温泉宿泊費

【山形・さくらんぼひがしね】サクランボの収穫しようと、東根市とJA

ンボが高級品なわけが分かる」と話した。受け入れ農家の芦野さんは「毎年、猫の手援農隊に来てもらって助かっている」と話した。

【山形・さくらんぼひがしね】

同市の石山行雄さん(62)の園地で作業をした仙台市の渡辺のり子さん(66)は「サクランボ

さくらんぼひがしねなどでつくる同地域担い手育成総合支援協議会は18、20日、仙台市などから10人の「援農ボランティア隊」を受け入れた。

今年初めて企画した。受け入れ農家が、アルバイト代の代わりに2泊3日の温泉宿泊費を負担する。

石山さんは「初めてでも短期間でもできる作業はたくさんある。多くの人に参加してほしい」と、援農ボランティアの広がり期待を寄せた。

援農ボランティアは2回実施される予定で、第2班は25日から9人が訪れる。



サクランボを収穫する、(右から)岩橋さん、太田さん、加藤さん(山形県東根市で)